

〈視線入力装置とは〉

視線検出式入力装置、アイトラッカーとも呼ばれ、手足や口を使わず、視線(眼球の動き)のみでパソコンやタブレット端末を操作できる装置のことをいいます。重度障がい者のコミュニケーションを支援する装置として利用されています。

〈視線入力装置を活用してできること〉

- ・児童生徒の見え方を知ることができ、実態把握につながる。
- ・注視や追視の練習をする。
- ・画面上で画像やイラストを選択したり、決定したりする。
- ・スクリーンキーボードを表示して、文字を入力する。

〈視線入力装置の仕組み〉

- ・目の位置や眼球運動には個人差があるので、「キャリブレーション」という操作で児童生徒に適した設定を行う。
- ・瞳孔の動きをカメラで追跡して視線の向きを割り出し、画面上のどこを見つめているのか特定する。
- ・必要に応じて「注視を何秒するとマウスのクリック操作を行う」といった詳細な設定をする。

〈実際の視線入力装置〉

(現在本校で主に使用しているもの)

視線入力装置

※視線の動きをとらえます。
EyeTech TM5-Mini



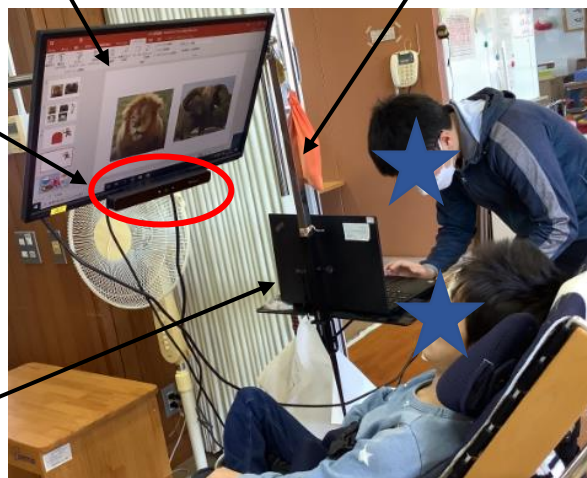
キャリブレーション設定画面

ディスプレイ

※視線の動きを表示します。

固定具

※楽な姿勢で画面を見られるように調整します。



視線ソフト

※パソコンにソフトをインストールします。
miyasuku EyeConLT2

PowerPoint で動画や画像を作成したものや学習アプリ EyeMot などを活用していろいろな学習に取り組んでいます。

右上の写真では、教師の質問に対して、その答えとなる物を見て回答する活動を行っています。2つの画像があるスライドを準備し、「A君、〇〇はどっち」などの教師からの質問に対して視線入力を促すことで、生徒Aの意思を確認しています。画像を注視することで効果音とアニメーションが起動し、児童生徒が視線を向けることの意味に気付けるようにしています。視線入力装置を活用することで生徒Aの意思をより明確にし、表出手段を増やすことを目的としています。